



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	技術・家庭科（家庭分野）（各教科・領域の研究）(fulltext)
Author(s)	桒原, 智美
Citation	研究紀要：東京学芸大学附属世田谷中学校研究年報, 2015: 156-163
Issue Date	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/147658
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

1. 研究主題

**世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」の実践的研究
技術・家庭科で支える力と学び合い、主体的な力を育む実技指導**

2. 研究主題・目的について

実践的・体験的な学習を通して、仕事の楽しさを知り自分の生活に結びつけながら考え、学び、発展させていけることをテーマとしてきた。実践的・体験的な学習を通して、『工夫し創造』する力を習得し、失敗しても立ち直る、次にどのようにすれば良いか考えることができる力を育てていきたい。頭で考えるだけでなく、実際に「物」を作り、情報を発信していくことを体験することは大切である。生活にかかわる「物」について、表示の形式や制度がかわっても、自らが商品の情報発信をする事業者として社会における役割、判断し選ぶ消費者の責任についてのサイクルを体験・考察する機会を持つ学習の場を提供していきたい。今後更に多くの地域の風土・環境の異なった外国の製品など現在では考えることのできない商品が市場に出てくる可能性もある。

「激しく変わる社会を前向きに生きていける人間を育てたい」という希望は、ずっと変わっていない。環境や経済の価値などがかわってくる可能性もある。そのような社会を生き抜いていく力を育てたい。2013年度から研究課題としている「21世紀型能力を育てる」ことは、2012年度までの研究主題であった「リーダーとしての資質を育てる」とことと重なる。リーダーの研究時にもつきあっていたのだが、上に立つだけがリーダーではなく、多くの場が現実社会には存在している。時には上に立つが、そのような「場」だけではなく、横のまとまりをつけるなど、影で支える力はとても大切だ。表に立つより、真の力がないと支えていけない場合もあるだろう。上に立つ、立たないという考え方自身が「21世紀型の力」を考えるうえでは必要のないもののように感じた。それぞれの持つ能力を最大限に活用して、世の中の一員として生きていくことがとても大切である。「知識・技能、思考力、創作・創造力、判断力、主体性、責任感、協調性、コミュニケーション力、コラボレーションする力」といった、2012年度の研究でキーワードとしてきたことは、そのまま「21世紀型の力」につながる。「基礎基本をしっかり学習する必要がある」と考える。基礎基本を土台とし、目的や条件を明確にし、社会的・環境的・経済的側面から自ら判断・実践できる力を育てていきたいと考える。

3. 研究の経緯と概要

授業の小さな積み重ねが、将来、社会貢献や自己実現ができる資質につながっていくと考える。実践（授業実践、カリキュラム等）においては、生徒が熱心に取り組み、困難な場面においても自ら考え行動できる場を授業で取り入れようと工夫してきた。「リメイク」「調理実習」「幼児のおもちゃ作り」などの実習をおこなう中でも心がけてきた。家庭科の授業時間縮減のおり、製作の時間を取るのが厳しい状況であるが、材料の準備等で工夫を重ねながら授業実践を重ねている。2012年度は新しい試みとして家庭科の「食育」と技術科の「生物育成」を絡めての授業実践を行ない、単に「技術科で育てたものを家庭科で調理する。」という従来から実践されてきた形ではなく、

- ①家庭科で注文（希望）を出して
- ②技術科で作ってもらい、それを収穫して届け
- ③家庭科で調理し（生）、加工し（日持ちのする加工食品とし）
- ④家庭や他の学年も含めてそれをまた戻す。

という、「生産者」「消費者」の立場になり、「1学年と3学年」「2学年と3学年」という「学年を越えてクロスする交流」を取り入れた。

「誰かのために何かをつくる」「プレゼントをする」ということを取り入れ、「お茶」という題材が、広がりをつけられる題材であることを知ることができたのも授業実践をおこなうことにより得られた成果であった。2012年度の「技術・家庭科のコラボ」ではたくさんのことが見えてきた。生徒たちは学年を越えてのファイル、プリントやコメントでやり取りすることを、授業者が考えていた以上に楽しみにしていた。また、技術科、家庭科をそれぞれが理解する機会を得た。

また、本、資料を授業中に提供してもらう事での学校図書館とのコラボもおこなった。

2012年度の試みとして、2年生の食において、生徒の授業の結果を作品として家庭に戻すことの大切さを感じた。教科を理解してもらう機会であった。このような家庭を巻き込んだ活動は「21世紀型能力を育てる」授業で更に活用できると感じた。2014年度「わたし（友達）の成長・幼児の生活と遊び」の授業においては、自分の小さい頃の様子を家の人に聞くなどの課題を設定し、授業だけが単独で成り立つのではなく、今までの人生がつながっていることや、多くの人に支えられていることを伝える機会ともなった。

4. これまでの成果

(1) 「誰かのことを考えて、何かを作る」「情報を正確に、自分の理解を含めてコツなども伝えていく」「作ったものをプレゼントして、その感想を聞く」などの項目を発問に着目した、表現することを意識した指導技法を開発したのだが、これらは今後も続けたい。

2012年度は学校図書館とのコラボを「幼児のおもちゃ作りの準備」「お茶について」「ごほうについて」「栄養表作り」で行ったが、2013年度においては「郷土料理」「食材」などで実践し、「幼児のおもちゃ作りの準備」においてICTを利活用し、より発展した形の授業実践をおこなうことができた。ICTと図書館を利活用した授業として、作品や映像を身近なものとした授業をおこなった。班活動において機器を活用した授業実践をおこなったが、生徒の作品、レポートなどの結果から概ね有効であったと考えることができた。以前のレポート作品より良いものが短時間で完成した。

(2) 2014年度は「幼児のおもちゃ作りの準備」のICT利活用において、新しくPreziソフトの活用を追加した。年度の後半に「お弁当作り」授業において、loiloノートソフトを取り入れたICT活用の授業実践をおこなった。

(3) 2015年度は、ICTと図書館を利活用した授業実践を更に深め、loiloノートソフトを複数の場で用いて2014年度を発展させた形での画像と音声を活用した実践をおこなった。

(4) 第2学年において、新しく開発した「お手玉教材」の製作と説明書作りの授業実践をおこなった。

5. 2014年度公開授業、2015年度公開授業

2014年度「わたし（友達）の成長・幼児の生活と遊び」を実施した。これは2013年度におこなった文科省委託事業「確かな学力育成に係わる実践的調査研究」東京学芸大学附属学校図書館運営専門委員会主催

研究主題「学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資質・能力に関する調査研究」

教科主題「学び合い、主体的な力を育む指導～中学校家庭科の授業デザインを考える（中学校現場からの提案）～」

の実践の反省点を踏まえての授業公開とした。授業の流れの土台となるものは2013年度の授業実践にある。新たに、発表の形式を改良しPreziを取り入れ、全体を見渡し、かつ各自の学習成果にも目を向けられる発表を目指した。家庭科指導要領においても、実践の成果や課題を発表する機会を持つことになっているが、「わたし（友達）の成長・幼児の生活と遊び」の授業実践にICTと図書館の利活用を取り入れ、生徒が主体的にかかわり発表する授業実践を目指した。その発展として2015年度はloiloノートソフトを各学年で取り入れ、画像と音声を取り入れたCM作りの授業をおこなった。

6. 今後の課題について

正しい情報をつかめるように、発達の早い段階で経験をするには、これから続く消費生活を進める中での問題意識を身につけることにつながると考える。そのような積み上げをすることで、「自分自身の消費行動が社会に与える影響に対する意識」が生まれると考える。商品を作り・安全安心な使い方をしてもらうための適切な行動 という、売る側の立場を体験できる授業を考えていくことは課題の一つである。

また、自分のこれからの行動や考えを正しく進めていくためには、まず自分自身を振り返る必要がある。2014年度の公開研究会において、ICTと図書館の利活用を取り入れることで家庭科の授業にどのような効果があるのかを探った。2015年度も生徒が主体的にかかわり、お互いに学び合える授業実践について考え、自分自身を振り返る機会の持てる授業実践を提案した。

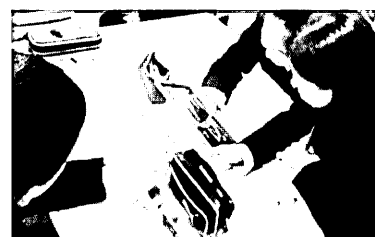
2013年度は「家族・家庭と子どもの成長」「被服の取扱い絵表示」「リメイク」授業においてICTを使って授業をおこなったが、まだ手探りの状態であった。2014年度は「家族・家庭と子どもの成長」「リメイク」授業などの被服系の領域に加えて、調理実習のまとめをloiloノートソフトを使用し試みた。2015年度はloiloノートソフトを「リメイク」「お弁当作り」「家族・家庭と子どもの成長」授業という、各学年における授業で取り入れ、画像と音声を使用した「40秒CM作り」授業を実践した。引き続き検証をして、2016年度もそれらをいかせるようにしたい。



①説明



②製作品を使用して説明



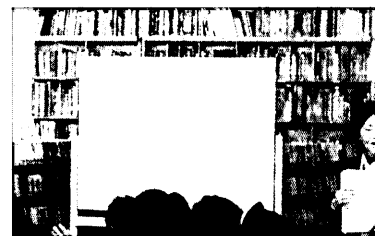
③ loilo ノートソフトを使用した画像を見る



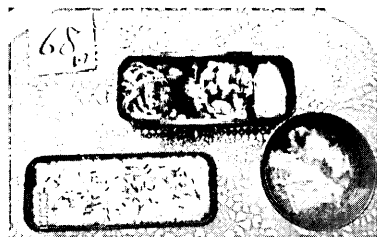
④班で話し合い



⑤各自の考えを記入



⑥班の話し合い結果を loilo ノートで提出



⑦ 2年お弁当作り実習



⑧ 2年お弁当プレゼンテーション作り



⑨ 1年しみ抜き実習風景



⑩ 幼児のおもちゃ

家庭科

教科のねらい・・・学び合い、主体的な力を育み、楽しさを体験し創造力を伸ばす。

教科として育てたい力・・・

1. 生活に必要な基礎的な知識と技術の取得を通し、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
2. 基本的な知識と技術を生かし、また身の回りにある情報を適切に選択して、自らの生活に役立て、生活を豊かでうおいのあるものにしようとする。
3. 実践的・体験的な学習を通し生活の自立に必要な基礎的な知識と技術を習得する。
4. 課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

家庭科 教科カリキュラムの構想

学年	学期	月	教科の目標		教育内容と教育方法・単元 (家庭科の基礎基本と育成する能力と態度)		(分野・内容・学習活動)	
			教科目標	目標				
1	1	4	生活に必要な基礎的な知識と技術の取得を通して生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	生活の自立と衣食住 変化の激しい社会において健康でたくましく生きるために、基礎的知識と技術を習得することが必要であり、それらをいかし、また身の回りにある情報を適切に選択して、自らの生活に役立て、生活を豊かでうおいのあるものにしようとする。 実践的・体験的な学習を通し、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。	本校独自のねらい 学ぶ楽しさを体験し創造力を伸ばす。	生活の自立と衣食住 家族と家庭生活 (1) 購入と消費 家庭の仕事	生活の自立と衣食住 家族と家庭生活 ・生活を見直す 短時間簡単な技術で製作する「身近な衣服をリメイクする」 身近なことに目を向ける 家庭の中に目を向けて生活をより快適にできるものを見つける。 作品製作(グループを作り共働で作る) 箸袋製作	
		5						
		6						
		7						
		8						
		9						
	2	10			家庭科は小中高と続く教科なのでその特性を生かしカリキュラムを精選しながら衣食住それぞれに関連を持たせていく。	(2) 家庭の仕事と家族	手縫い・ミシン基礎の復習「基礎縫いI」箸袋製作 ・衣生活の仕事について調べて実践しよう。 洗濯・簡単な手入れ・日常着の選び方 ・環境について考えよう。	
		11						
		12						
		1						
		2						
		3						
2	4	0よりよい消費生活のために	I-1 健康的に食べる	・五大栄養素 ・栄養所要量 ・食品衛生について				
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
3	10		I-2 健康的に食べる	I-2 健康的に食べる	・生鮮食品と加工食品・食品添加物 ・日常食の調理			
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							
3	4	II (1) 応用調理		II (1) 応用調理	・応用調理 食物の学習のまとめとして大量調理とお弁当作りにチャレンジしよう。 (健康を考えた栄養バランス・大量調理・クラスメイトのお弁当の調理をしあう。) iPadを使ってまとめをしよう。			
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
3	10		III-1 家族と家庭生活	I 家族と家庭生活	・幼児の栄養・幼児の遊び 周囲の関わりと発達			
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							
3	4	II よりよい消費生活のために		II よりよい消費生活のために	I-1 幼児の喜ぶものや幼児のおもちゃを作ろう 資料を集め計画・企画をたてよう (ICTと図書館の利活用) iPadとIolioノートを使ってプレゼンテーション)			
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
3	10		III 身近な消費生活	III 身近な消費生活	・商品を選択と購入(おもちゃについて考える) ICTの利活用 説明書の作成			
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							

2015 東京学芸大学附属世田谷中学校公開研究会
技術・家庭科 (家庭分野) 学習指導案

東京学芸大学附属世田谷中学校

授業者 桑原 智美

対象学級 3年C組 40名

場 所 東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

題材名：「40秒PR CMを作って、幼児の成長、遊びについて考えよう」

学習内容：家庭分野 内容A「家族・家庭と子どもの成長」

設定の理由：

実践的・体験的な学習を通して、実習の楽しさを知り、自分の生活に結びつけながら考え、学び、発展させていけることを本校家庭科において長年テーマとしてきた。日本、そして世界を支えるビジョンを将来持つことができる人材を育てたい。家庭科の授業時間縮減の中であるが「激しく変わる社会を前向きに生きていける人間を育てたい」と思う。力を合わせてまとめ、話し合い、知恵を出し合うことにより、自分以外の人の考え方や、経験に触れることで自分自身の考えが深まると考え、今年度はICT・図書館の利活用も取り入れ、「40秒PR CM」を作成し、そのプレゼンテーションの映像をみて、幼児の成長・発達と遊びの関連について考えることとした。

他の場面や将来にわたっても活用できるスキル・施設の利活用を身近なものとしてもらいたいとの考えから、積極的に家庭科授業でICT・図書館の利活用を取り入れている。他の生徒のことを知り、協力をしながら作業をすることは、協働の経験をする一つの場となる。基礎的な知識を得た後、お互いにコミュニケーションを取りながら活動をしていくことで、本校の研究課題である世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」を獲得していく積み重ねの一つの場となると考える。その積み重ねにより、公共の精神を培いながら皆に関わる将来のビジョンを考えることへもつながっていくと考える。そして家族や周りの人の立場に立つことで、周りに支えられていることを知るよい機会ともなる。

カリキュラムの流れとして2年次に行った「幼児の成長・生活」についての学習結果を皆で共有しながら、班で他の人と関わりながら話し合い、クラスで考えることにより、幼児についての理解を深めると同時に、自分の生活を振り返るきっかけとしたい。この授業では「幼児の役に立つもの、幼児のおもちゃ」製作の作品の流れとして取り入れての実施となる。

生徒の実態：

自分たちの生活を振り返り、1年生の「生活を見直す」の授業において身近なものを用いてリメイク作品を製作している。また、1年生の最初の授業で自己紹介を兼ねて、小学校時代までについて被服作品の製作、調理にかかわる実習に関連させながら簡単なふり返りをしている。2年次に自分の幼児期についての学習を取り入れていることで、自分は周りに支えられて生きてきたことを確認している。その後1年経過していることで、考え方なども多様になっていることと思われる。

2年次最後のお弁当調理の実習時に、作る対象を家族や幼児などに設定する生徒が多数出ていた。2年次の幼児のレポート作成後はpreziソフトを使用して、幼児の成長・発達のプレゼンテーションを班ごとに行っている。芸術発表会において先輩のおもちゃ作品を見て、「おもちゃを構想しよう！」のプリントでも自分で工夫を考えることの大切さを伝えているところである。

3年次にすでに各自の工夫を取り入れた「幼児のおもちゃ製作」を行ったが、以前の生徒よりも計

画に具体性が出て、的確で効率良い流れで進んでいた。今回はそれらの集大成として、40秒でプレゼンテーション用のPR CMを作り、遊び方の説明書作りを行った。また、自分たちが手本としていた先輩の作品を思い出し、自分たちが後輩の手本になっていくことの認識が進みつつある。

家族としての立場で消費者としての視点も取り入れながら、話し合いを深め、意見を出し合いおもちゃの選定をしていく過程で幼児についての理解を深めていく。

題材の目標：

- ① 幼児の成長についての学習を踏まえて、幼児に適した遊びやおもちゃについて考えることができる。
- ② 家族の立場に立ち幼児期のお話をすることにより、現在の自分の生活と結びつけながら考え、学びや考えを発展させる機会を得る。（多くの人に支えられて生きてきたことを再度認識する。）
- ③ 作業や調べ学習の内容を共有することにより、コミュニケーションが生まれ、他の人を思いやり、他の人の考え方や意見を聞くことができる。（協働、共感の1つの機会とする。）
- ④ ICT 機器を活用して「40秒PR CM」の作成をすることで、自分の作品についての理解を深め、他への発信を意識する。

題材の指導計画（4時間扱い）

1. loilo ノートを使って「40秒PR CM」と遊び方の説明書を作ろう。 1時間
2. 「40秒PR CM」プレゼンテーションをみて、自分と友達の映像作品について考えよう。 1時間
3. 説明書を仕上げて相互評価を行おう。 1時間
4. 家族の立場で幼児のおもちゃを選ぼう。 1時間（本時）

本時の目標

1. 「40秒PR CM」をみることで幼児（3歳児）に適したおもちゃについて、関心を寄せることができる。
2. 幼児について興味・関心を持ち、幼児期について家族の立場、消費者としての立場で考えることができる。
3. 班やクラスで話し合うことにより、お互いの考えを共有し、より深く考えようとする。

本時の展開

授業過程 学習内容		生徒の学習活動	指導上の留意点 ○評価
導入 10分	学習内容と 学習目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の続き。相互評価の結果について生徒自評。(2名) ・今までの学習の流れを確認。 ・本時の学習内容・学習目標の確認。 ・自分たちのおもちゃで遊ぶ3歳児、5歳児の映像をみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の続き。相互評価の結果について生徒自評。 ・今までの学習の流れを確認する。 ・本時の内容・目標を確認する。 ・(個人ファイル返却) ・(ワークシート配布) ・生徒のおもちゃで遊ぶ3歳児、5歳児の映像を全員でみる。
	流れの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本で行う話し合いの流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れについて確認する。 (ワークシートに説明あり。)

展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 対象作品を見る 班で話合う 決定 回答 意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児用のおもちゃの映像をみる。(学年から選出の3歳児対象代表6作品A~F) 話し合いの仕方の内容確認をする。 家族の役を決める。(①親②きょうだい③祖父母④①~③より各班で決める。 <p>班で話合う プリントを記入する。</p> <p>1作品決定する iPadで回答する</p> <p>1位の作品を選定した班は観点を述べる。→順次別作品へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由を書きとる。 意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児用のおもちゃの映像を流す。(プロジェクター・iPad) 話し合いに対する説明をする。(機材等含め。) (各班に生徒用iPad 1台) 家族の役の決定時の注意をする。 iPadで代表6作品を必要に応じて班ごとにみるよう指示。 (代表6作品の説明書) (3歳児を対象とした、2年次の個人レポート) ○各自のワークシート記入を指示。 ○視察する。 ・質問事項について必要に応じ説明をする。 ・教員BOXへのiPadでの回答を促す。(新規ノート:3歳児) ・発表 ○理由を述べる。○意見交換
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 次時の予告 片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートをまとめる。 ワークシートを入れ、ファイルを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート記入の補助説明をする。 次時の予告(「幼児の食事・栄養」について) ○ワークシート提出

本時の評価

1. 「40秒PR CM」をみることで幼児(3歳児)に適したおもちゃについて、関心を寄せることができる。
2. 幼児について興味・関心を持ち、幼児期について家族の立場、消費者としての立場で考えることができる。
3. 班やクラスで話し合うことにより、お互いの考えを共有し、より深く考えようとする。

遊び						
多様な遊び						

ということで、

班で選んだおもちゃ (A~F): _____

クラスで出た意見:

自分が幼児のおもちゃ、遊びで大切だと学んだこと、考えたこと:

ファイルにワークシートをはさんで提出すること。